＜様式＞

学校名	令和７年度 山形市立南小学校 山形市青田二丁目１番１号 TEL６３２－３６６０　FAX６３１－９０１９		
研究主題	**令和７年度研究主題＝学校教育目標** **「夢を持ち、わたしの未来・わたしたちの未来を豊かに創造しようとする子どもの育成」（第2次）** **副題　―言語能力の育成に重点を置いたカリキュラムマネジメント―**		
研究の内容	**★研究の内容＝学校教育目標具現化のグランドデザイン** **3つの資質・能力育成と3つの教育活動の方針** **★研究の重点＝言語能力に重点を置いたグループでの協働研究** **教科は国語、算数、道徳・学活の3つから選択** **◎育成を目指す資質・能力** **1．生きる支えとなる資質** （1）　感性・感動・欲求の主体化 （2）　共生への志向 （人間関係形成能力・社会形成力） （3）　基本的自尊感情 **2．学習の基盤となる資質・能力** （1）　言語能力 （2）　メタ認知 （3）　問題発見・目標設定能力 ※知的好奇心 （4）　問題解決能力 （仮説設定→実践→評価→仮説の再設定） （5）情報活用能力（情報モラルを含む） **3．各教科で育成すべき資質・能力** ◎　各教科等の学習指導要領解説参照 **◎教育活動の方針** ※丁寧な見取りと対話による子ども理解を土台とした教育活動の展開 ①美しさ・面白さ・心地よさに浸ったり、没頭したりする教育活動（五感・身体を使った活動） ②遊び・生活の中の「不思議」「なぜ」等の問いを活かした教育活動「プレイフル・ラーニング」 ③生徒指導の４視点をふまえた教育活動 ※　全ての教育活動で、意図的・計画的に育成する ①　丁寧に聞く（言語能力の育成の土台は「聞く」） ・相手の意図を考えながら聞く わからないときは問い返す ・伝わる言葉を選んで話す ②思考・感情・感覚の言語化 ③　「問い」を立てることを大切にする ④　「自分づくり」「学校づくり」の推進 ⑤「失敗してもOK」⇒「失敗」を問題発見・目標設定能力で活かす ※教科の本質 ①有意味学習 ②オーセンティックな学習 ③明示的な指導 ※自己決定的学習 ①順序選択学習 ②課題選択学習 ③課題設定学習		

研究の方法

学年オープンのグループでの協働的な研究

学年オープンで３つのグループを作り、縦の系統性などを意識しながらグループで事前研、授業作りを行う。わかたけ学級担任もそれぞれのグループに所属する。大研は言語能力の基盤がある程度整った２学期に３つ行う。小研の際はグループで事前研は行わず、学年で検討する。本時は可能ならグループの先生の授業を参観する。事後研は学年、参観した先生で行う。小研の日程は教務と授業者が相談の上、年間行事予定を見て決めていく。

教科をしぼっての研究授業

国語・算数・道徳の３つの教科で研究授業を行う。それぞれの教科に応じた言語能力の育成を意識し、授業作りを行う。

事後研の在り方

昨年度の方法を踏襲し、子どもの学びを丁寧に見取り、固有名詞や学びの具体的な姿から教科の本質（教科目標や教科で育成したい資質・能力）に迫ることができるような授業研究会を行う。

小研の在り方

小研は

①自分のグループの教科で通常通り４５分間の授業を行う。

②モジュール（１５分間）で国語、算数、道徳・学活の活動を行う。

例）国語･･･詩集を活用した活動など

算数･･･問題の解き方などを言葉で説明するリレーなど

学活･･･心を通わせる言葉を育てることにつながる構成的グループエンカウンターなど

の２つから選択できるようにする。

言語活動について学び合う場の設定

大研が年３回になったことで、学びの場を保障するためにも、年２回「言語能力を高めるためにどんな取り組みをしているか」についてざっくばらんに情報交換する場を設ける。また、それぞれの先生方が「どんな思いで学級経営をしているか」、「言語能力を高めるためにどんな取り組みをしているか」などを紹介する研究だよりを発行していく。

学年　カリキュラム検討

1　ねらい

年間指導計画を見通し、重点的に指導する教科等（単元等）、そこで育成したい資質・能力を明確にして、児童の学力向上につなげる。

おおまかに年間を見通せるように。見通しをもって１学期の指導に当たれるように。

2　進め方

（１）総合的な学習の時間（３～６年）の年間指導計画を、検討する。

□現時点での計画で、途中で変更になる可能性はあり。

□今後の学習を進める上で、記述しておいた方がよいことは自由に記述する。

（２）児童の実態、学校経営方針と、年間指導計画を照らし合わせる。

生きる支えとなる資質を育むために

※丁寧な見取りと対話による子ども理解を土台とした教育活動の展開

①美しさ・面白さ・心地よさに浸ったり、没頭したりする教育活動（五感・身体を使った活動）

②遊び・生活の中の「不思議」「なぜ」等の問いを活かした教育活動

「プレイフル・ラーニング」

③生徒指導の４視点をふまえた教育活動

学習の基盤となる資質・能力を育むために

※　全ての教育活動で、意図的・計画的に育成する

①　丁寧に聞く（言語能力の育成の土台は「聞く」）

・相手の意図を考えながら聞く

わからないときは問い返す

・伝わる言葉を選んで話す

②思考・感情・感覚の言語化

③　「問い」を立てることを大切にする

④　「自分づくり」「学校づくり」の推進

⑤「失敗してもOK」⇒「失敗」を問題発見・目標設定能力で活かす

各教科の資質・能力を育むために

※教科の本質

①有意味学習　　③明示的な指導

②オーセンティックな学習　　④課題設定学習

そこで育成したい「資質・能力」と「活動の方針」を年間指導計画に手書きする。
□１．生きる支えとなる資質・能力　に関わるところを　赤
　２．学習の基盤となる資質・能力　に関わるところを　青
　　※言語能力に関することは必ず入れる。
　３．各教科で育成すべき資質・能力に関わるところを　黄　のペンで囲む
　　一番多い色のところが、その学年で一番重点とする方針として捉える。
□できれば「活動の方針」を教科に落とし込んで具体化していく。

□学校として育成を目指す資質・能力は、全ての教育活動において普段から意識して指導していくべきものだが、特に重点とする教科等（単元等）は、ある程度絞ってもよい。

（３）他教科との関連を図る（教科で獲得した資質・能力を活用、発揮させて解決させる）場を設定し、年間指導計画で関連を図る単元をつなげる。
□「あの時学んだことが、ここの学習でも使えそう」と子どもに自覚させるには、私たちがまず自覚する必要がある。私たちが無自覚だと、ただ通り過ぎてしまう。

研究の計画

＜研究全体会＞
第１回　４月２１日　　第２回　４月３０日　　第３回　５月　２日　　第４回　５月　９日
第５回　７月３０日　　第６回　１２月２５日　　第７回　２月２０日
今後、日程を相談し、学期ごとに学年カリキュラムの振り返り、調整を行う。２回程度

＜大研授業研究会　計画＞　日程は候補の段階
第１回　①９月８日　②９月５日　③９月１２日　　１学年　　教科：道徳

第２回　①１１月１９日　②１１月１０日　③１１月２７日　　５学年　　教科：算数

第３回　①１２月１０日　②１２月１６日　③１２月１８日　　３学年　　教科：国語

※小研は教務と日程を相談し、大研の合間に挿入していく。

外部講師を招聘しての校内研修会について

４月２３日　「言語能力の育成と深い学び」について

７月１７日　算数についての講話（講話の内容は今後決定）

７月下旬　　言語能力に関する講話（講話の内容は今後決定）